

=第21号=

発行：平成15年10月1日

編集：立命館大学応化会事務局

編集責任者：香山彰朗

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学応用化学系事務局

TEL 077-561-2658

RITS
立命館大学

応化会ニュース

現代学生事情

応用化学系系長 澤村精治

平成十五年度応用化学系前期学系長（後期は小野文一郎先生）として応化会会員の皆様へご挨拶申し上げます。

理工学部がBK Cへ移転して十年が経とうとしています。その間に理工学部は様々な展開をしてきました。応用化学系においても二〇〇〇年四月に「化学科」「生物工学科」から「応用化学科」「化学工学科」へ学科名称を変更し、新たな展開を始めました。さらにその上に、二〇〇四年には情報理工学部を新設するなど、留まるところを知らず展開している状況です。

【女子学生】

こういった変遷とともに、学生分布もずいぶん変わってきたと思います。一つには女子学生が増えたこと、衣笠時代には理工学部全体で数えるほどしかなかったのが、現在では応化系の三〇、四〇%が女子学生であり、頼もしい限

り活躍ぶりです。女子トイレが建物の一部にしかなかった衣笠時代はもうすでに過去の時代です。応化会もいずれ半数は女性会員となるでしょう。残念ながら就職に関してはまだ厳しい状況があるようですが、すでに実社会で活躍されている女性会員の皆様には改めてましてご声援をお送り申し上げます。いずれ世の流れに従って諸問題も解決されていくことと思いますが、先輩諸氏には是非とも支援・ご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

【大学院生と博士号】

もう一つ同じ時期に変化してきたことに大学院進学率増が有りま

す。博士前期課程（修士課程）への進学率については十数年前の二〇%から現在の三〇、四〇%まで増加してきたことはすでに存じかと思えます。理工学部では大学院へ進学するのが当たり前の状況になってしまいました。これに

ともない博士後期課程（博士課程）への進学率も増加の傾向があり、現在フロンティア理工学専攻の院生も含めて三十一名が応化系に在籍しており、十年前の状況とは急変しているといっても過言ではありません。これほど多くなる

と、学生の方も博士号取得後は大学・企業にこだわらず活躍の場を求めているようです。欧米に比べて人口あたりの博士の輩出数が半分である日本では、まだまだ進学率が増加する余地はあるのかもしれない。特に、大卒で就職するのが当たり前であった日本で、大学院進学、特に博士後期課程修了後就職するという社会慣行が一般化されてこなかったことに対して、

社会のグローバル化の波が今影響してきているのかもしれない。

文部科学省の白書を見ると一九九七年の博士の輩出数は日本と中国いずれも約五千名/年でした。

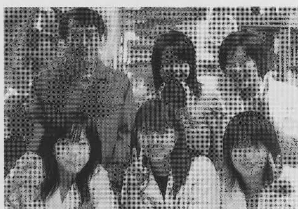
ただし中国のその増加率は十五% /年であり、一九九〇年頃から急上昇しています。日本がほぼ横ばい状態であるのに対して、将来の

アジア圏のグローバル化に中国の存在は無視できない存在です。しかも中国の大学院の指導者の多く

はアメリカでの教育を受けており、指導も中国語ではなく英語で行われ、即国際化に対応できる人材を養成していると聞きます。学生のためを思って和訳された専門書も今となつては学生の国際競争力と学力向上にとつてどうなのか、複雑な心境です。

大学、企業、一般社会を問わずグローバル化の波が押し寄せてきている時代であり、最近の学生事情を紹介しました。後輩諸氏への会員の皆様からの温かいご支援を宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが会員の皆様のご健勝と益々のご繁栄をお祈り申し上げます。



2003年8月4～5日 1日体験入学にやってきた高校生と

定年退職にあたって

大瀧 仁 志



「立命館大学にきていただかせんか」というお誘いをうけたのは、私が分子科学研究所を定年になる前の年（一九九二年）の七月であつたと思います。京都駅前のホテルのロビーで谷口吉弘先生から理工学部大学院改革構想と勤務年限に関する丁寧なオファーを伺って関西の地に住いすることを決めたのでした。関西弁のまっただ中でひとり早口の関東弁をまくしたてるのはいささか場違いの感がないでもありませんでしたが、まわりの御迷惑を別にすれば、私にとつてとくに違和感があつたわけではありませんでした。

衣笠キャンパスでの最初の一年間はいささかの驚きのなかで過ぎました。それは与えられた教員室のあまりの狭さでした。翌年の一九九四年にはBKCキャンパスに移り、ようやく一人前の教員室を与えられ、ほっといたしました。イーストウイング七階の部屋からは琵琶湖、比叡山から比良山系まで一望でき、夏には火花が眺められるというすばらしい環境でした。研究費に関しましても幸いに立命館大学に赴任以来、制度の変わつた最終年度を除いて、欠かさず科学研究費補助金をいただくことができ、さらに学術フロンティアプロジェクト、国際共同研究等、大学からのご援助もあつて、ほとんど不自由のない研究生を送ることができました。また小堤教授の御援助のお陰で、不在勝ちなわたしの指導不足を補つて頂くことができました。

卒業研究で配属される学生諸君との対応にはいささか戸惑いを覚えたことは事実でした。研究室配属になつてもセミナー以外にはほとんど顔を出さず、就職運動とアルバイトに精を出すという状況は、これまでの長い教員生活では経験したことのないことでした。福井や岐阜の自宅から単位を取るための授業にだけ出席しに大学に来るという学生をみたとき、「これが私立大学の実態か」と愕然としたことでした。しかしなかには国立大学の学生を凌駕するほどの熱意と能力をもつた学生もおりました。ことに私の教員生活の最後の数年間におけるわが研究室の学生の勉強振りには、「ようやく議論できる学生に出会えた」という喜びを与えてくれたものでした。外国での国際学会にも同行させ、研究発表をさせることができるところまでになりました。「十年かかったか」という感慨はありましたが、一方、世界の学生と十分対等に渡り合える学生が育つたという喜びは何にもまして大きく、立命館大学の生活に心おきなく終止符を打つことができたと思つております。

ではむしろ大学の厄介者の存在であつたような気がします。しかし、今や理工学部は立命館大学の看板学部になりました。私が「立命館大学」の者だと自己紹介をするとき、常に喜びと誇りを感じました。このような喜びと誇りが国際的な場でも感じられるようになってほしいと思つております。「国際的」という言葉はもはやとくに新鮮味はありませんが、本学に関していえばまだまだ十分にその活動領域を国際的、世界的に広げたいといふ難いのではないのでしょうか。在任中に実施した三回の *Ritsumeikan Nobel Forum* はその希望の一つでした。キャンパス

のなかをノーベル賞学者が行き交い、教員諸氏とは勿論のこと、学生諸君と噴水のそばのベンチに腰をおろし、あるいは食堂のテーブルに座つて意見を交換しあうことが日常的に行われるということが私の夢でもありました。次の十年にはこのような夢は夢でもなんでもない、当たり前のことになるであろうことを期待しています。退職後の一年間はCOE推進機構の客員教授という名目で大学への出入りを許されておりますが、とりあえず退職の御挨拶とこれまでのご厚誼に対して深く感謝を申し上げます。次第であります。

大瀧仁志先生の 御定年退職にあたって

小 堤 和 彦

大瀧仁志先生は、岡崎国立共同研究機構分子科学研究所を御定年退職後、一九九三年に立命館大学に御着任されました。大学協議員や理工学研究部長などの学内の重要な役職を歴任され、本学ならびに応用化学系の発展のためにご尽力されました。また学外では、日本学術会議会員として長らくご活躍され、国際的にも国際純正応用

「宇宙旅行」

宇宙科学研究所 教授 棚次 巨弘



宇宙旅行の話しを始める前に、宇宙に飛行することを力学的な観点から考えてみる。

地球は太陽の周りを周回する惑星で、太陽の重力場の中で、太陽の引力(位置エネルギー)と周回する運動の遠心力(運動エネルギー)とが釣り合って運動している。太陽系の他の惑星も同様であり、この関係は地球と月との関係でも同じである。実際には複数の天体の引力が同時に作用するので少し複雑なものとなっているが、大まかな話をする場合にはあまり気にしなくても良い。宇宙に行くと言うことは、地球から飛び出して、地球の周辺や月あるいは他の惑星に行くことで、これは地球上のエ

上から出発して十分足らずでこの速度に達している。宇宙は時間的には非常に近いところにあるが、エネルギー的にはかなり速くにあると言える。

次に、宇宙旅行の歴史を振り

返つてみる。最初に宇宙旅行を夢見たのはフランスのジュール・ベルヌで、「地球から月へ」と題したSFを一八六五年に出版したが、SFを現実のものとしようとした研究者が現れ、一九〇三年にはロシアのチオルコフスキーが液体推進剤を用いたロケット推進を提案し、一九二三年にはドイツのヘルマン・オーベルトが「遊星空間ロケット」を出版し、宇宙旅行が技術的に可能であることを力学的に立証した。一九二六年には米国のロバート・ゴダードが世界で初めて液体ロケットの飛行試験に成功した。この時の飛行時間は僅か四二秒間で、到達高度も四十一mであったが、その後、改良を重ね一九三〇年半ばには人工の飛行物体として初めて音速を超え、高度二七kmに達する成果を上げた。この間にゴダードは二一四の特許を取得したが、当時の米国ではその業績は評価されなかった。液体ロ

ケットが最初に実用化されたのは第二次大戦中の一九四二年で、ドイツのフォン・ブ라운が開発したV2ロケットであったが、残念ながら兵器として使われた。

本格的な宇宙旅行が始まったのは、一九五七年にソ連が世界で初めて打ち上げた人工衛星「スプートニク」の後で、東西冷戦の中、

米国はソ連に対するロケット技術の遅れを挽回するため、人類を月に送り帰還させるアポロ計画を実行した。一九六九年にアポロ十一号が月を往復し、人類は初めて他の天体に旅をした。一九七〇年には日本でも最初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げられ、宇宙活動に参加するようになった。この「おおすみ」はこの原稿を執筆中の八月二日に大気圏再突入し、三十三年間の宇宙の旅を終えた。米国のアポロ計画で宇宙飛行の技術は飛躍的に進展し、その後、日常的に人や物資を宇宙に輸送できる乗り物としてスペースシャトルが開発され、一九八一年から運用を開始した。更に、スペースシャトルを利用して、人類最初の宇宙の拠点として、国際共同開発で宇宙基地が建設されようとしている。今年、ライト兄弟が世界で初めて動力飛行機の飛行に成功して百年になるが、これに対して宇宙への飛行は半世紀遅れており、現在のスペースシャトルは、これまでに二十年余りの間に一三回飛行したが、残念ながら二回の事故によって搭乗員の生命が失われた。スペースシャトルは第一世代の再使用型宇宙輸送機であり、今後二十年から三十年を掛けて現在の航空機と同様な信頼性、安全性とコストを目指して研究開発を進め、一般の乗客が宇宙へ旅行できる乗り物にする必要がある。将来の宇宙輸送機は、航空機と同様な形態になり、飛行場から水平に離陸し、水平に着陸して乗り心地や運用性も良いものとなるよう計画されている。

ジュール・ベルヌの月への旅行を描いたSFは百年程度で実現されました。先ず、夢を持ち、その夢を描くことが重要です。描くことのできる夢は情熱を傾ければ必ず実現することは、人類活動のあらゆる分野に共通のものではないでしょうか。

(二〇〇二年十一月九日の「関東地区懇話会・懇親会」の講演後に寄稿いただいたものです。)

カラオケで心身のリフレッシュ

北尾 舒彦
(昭和三十九年卒)



月立山に両の掌合わせ
せめて便りが噂が欲しい♪

今日も成世昌平の「はぐれコキリコ」が響いている。ここは京都市の某老人福祉センターの一室。カラオケ同好会の練習日で、皆さん順番に自分の好きな曲を歌っている。

何も彼も忘れて、ひたすら腹の底から大声を出して歌うことは、心も体もすっきりしてストレスの発散になり、うまく歌えた時は、大変満足感を覚える。声の調子が良い時には、自分の歌に陶醉することが、たまにあり、そんな時の快感忘れられない。

このセンターは、四十畳強の和室に十五畳位の舞台があり、そこにレジャー・カラオケの機械が設置

されている。この機械は比較的性能が優れていて、音程の上下はもろろんのこと、高音部・低音部・マイクエコーなどの強弱を人に合わせて調整することができるので、歌はかなりうまく聞かえる。

同好会のメンバーは二十八名で、男女半々で、年齢は九十三歳から六十歳までで、平均は七十歳前半です。

曲は演歌が中心で、男性は湯の町エレジー・上海帰りのリルなどのナツメロから、五木ひろしの新曲まで、レパトリーが広い。

女性には新曲を追っ掛ける人が多く、六月の例会では、鳥取砂丘・北の雪虫・信濃川などが歌われていた。皆さん歌うことが好きで、月二回の練習日と年二回の発表会を楽しみに待っている。メンバー

の中で、歌の上手な人は、老人ホームなどの福祉施設をカラオケで慰問している。また、別にカラオケ教室に行つて、先生に就いて、新曲を教えられる人も

いる。その事。

私の場合、聞いて好きな曲と自分で歌える曲は、一致していなかった。カラオケで歌う時は、キーを上下させずに、原曲のまま歌えることと、音域や音質が出来るだけ自分に近い歌手の曲が、最も上手に聞かえる。今、私は自分の声に合った曲を探す為に、吉幾三・高山巖・五木ひろし・成世昌平・梅沢富美男などいろいろな人の曲に挑戦している。

今年の春の発表会では、高山巖の「心凍らせて」を歌った。秋の発表会を目指して、いろいろな曲を歌っている。今の所、成世昌平の「はぐれコキリコ」かまたは五木ひろしの「おふくろの子守歌」が良いと思っている。

背筋を伸ばして、大きく息を吸って、おなかから歌うと腹筋や腰の筋肉を使うことになり、内臓にも良い影響を与える。また、なつかしい曲を聴くと昔の良い時代を思い出して、穏やかな気持ちになれる。

皆さんと一緒にカラオケを歌ったり、聞いたりすることは、最高のコミュニケーションで、ストレスの発散にもなります。

歌える間は、いつまでもカラオケを続けていこうと思っています。

六甲縦走有馬温泉入湯のハイキング

香山彰朗
(昭和三十一年卒)

昨年十二月二十六日に行われた第七回「六甲山徒行会」に初めて参加しました。「徒行会」は企画運営委員会が平成十一年より計画された、会員相互の親睦を図る趣味の会の一環で、私も最初から参加したいと思つていましたが、種々の先約行事が重なつて実現しませんでした。今回やっと日程が合つて参加することが出来て、長年の夢が叶いました。(オーバー加の日は前日の天気予報は雨で、当日雨なら徒行会はどうなるんだ



ろうか、その連絡はどうするんだろうかなど気にかかり、事務局に電話などして問い合わせましたがもう一つ要領を得ません。そこでエーイままよと腹を括つて、なるようになれと聞き直り当日を迎えました。案の定、朝から天気が芳しくなく、今にも降り出しそうでしたので不安を胸に家を出ました。集合場所のJR六甲道駅に着いた時には当然のように降り出しました。しかし、参加予定者全員集合で雨天決行、川口リーダーを先頭にスタートしました。

今回のメンバーは三上正勝(三十七年)、北尾舒彦(三十九年)、青山雅俊(四十年)、川口士郎(四十年)、東正弘(四十年)、水田宣雄(四十年)、西村博(四十五年)の皆さんおよび私(三十一年、最年長)の八名です。

まず、バスで六甲ケーブル乗り場まで行き、ケーブルを横目に見ながら登山開始です。登りは六甲

山頂まで所々休憩をとりながら歩を進めました。雨は一向に止まずメンパーからは私が初参加のため雨男とか天気は何でもありとか冷やかされっぱなしでした。昼食は幸い屋根のある場所であつて雨で冷えた体と疲れを癒すため、最近開場した公衆浴場「金の湯」に入りましたが、人気が高く芋の子を洗う如き満員でゆっくり出来なかつたのが残念でした。最後は神戸・三宮で毎回通りの反省会(?)を開いて散会となりました。生憎の天候でしたが期待通りの徒行会で、年寄りの冷や水と言われても次回以降も是非参加したいと思つています。

有馬温泉までの下りは勾配が非常に急なコースで、登りよりも疲れ、足に身が入つて大変でした。雨で冷えた体と疲れを癒すため、最近開場した公衆浴場「金の湯」に入りましたが、人気が高く芋の子を洗う如き満員でゆっくり出来なかつたのが残念でした。最後は神戸・三宮で毎回通りの反省会(?)を開いて散会となりました。生憎の天候でしたが期待通りの徒行会で、年寄りの冷や水と言われても次回以降も是非参加したいと思つています。

企画運営委員会報告

東 正弘

(昭和四十一年卒)

今年で、六年目を迎えたゴルフ山歩き活動は、まだ小さな集団ですが、少しずつ新しい方の参加

もあり、広がることを願いつつ開催しています。ゴルフ・山歩きに興味をお持ちの方は、応化会事務局(武藤さん)へ登録頂ければ開催のご案内をいたします。

事務局電話

〇七七(五六一)二六五八

FAX

〇七七(五六一)二六五九

第九回「ゴルフコンペ」

平成十四年十一月七日

枚方カントリー倶楽部

幹事 浦野利巳氏(五十二年卒)

優勝者 樺原隆雄氏(三十二年卒)

他の参加者(敬称略)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

田村弘三郎(三十一年卒) 小林亀造(三十三年卒) 三上正勝(三十七年卒) 西原駿一郎(四十二年卒) 榎田克史(五十四年卒)

原文方・東正弘(四十一年卒) 樋田克史(五十四年卒)

の有馬温泉「金の湯」で汗を流しました。帰りに三宮のピアホールで反省会を行いました。

参加者(敬称略)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

香山彰朗(三十一年卒) 三上正勝(三十七年卒) 北尾舒彦(三十九年卒) 青山雅俊・川口士郎(四十年卒) 水田官雄・東正弘(四十一年卒) 西村博(四十五年卒)

応化会創立20周年記念事業について

「応化会」の前身であります「化学科同窓会」が、一九八三年(昭和五十八年)六月に発足しました。

以来、会員名簿および同窓会ニュースの定期的な発行など、会の目的であります。会員相互の親睦を図ること」に沿った活動を継続してきました。発足後、本年二〇〇三年六月で二十年目を迎えることになりました。

記念すべき二十年目に当たり、記念事業の実施について検討を行いました。「定期総会」が開催される来年二〇〇四年六月に「総会」と併せて「二十周年記念事業」を行うことになりましたのでお知らせ致します。

開催日、場所は以下の通りです。記念講演の演者、時間設定は未定です。

日時：二〇〇四年(平成十六年)六月十九日(土)午後

場所：京都タワーホテル(京都駅前)行事内容：

一、定期総会

二、創立二十周年記念式

三、創立二十周年記念講演会

四、懇親会

この他、二十周年記念事業として「創立二十周年記念誌」の発行を計画し、記念式当日配布する予定です。

記念すべき会合ですので、多数の会員がご参加くださいますようお願いいたします。

平成十五年年度会費(平成十六年三月三十一日迄)二千元を納入下さいますようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に関係なく平成十五年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成十五年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

(注：平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。)

平成十五年年度会費(平成十六年三月三十一日迄)二千元を納入下さいますようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に関係なく平成十五年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成十五年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

(注：平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。)

平成十五年年度会費(平成十六年三月三十一日迄)二千元を納入下さいますようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に関係なく平成十五年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

平成14年度（2002年度）事業報告

I. 諸事業

- 1) 徒行会の開催（本年度1回目） 2002年5月11日
- 2) 在校生への“会員名簿”配布 2002年5月
- 3) “2002年3月卒業生名簿”作成 2002年9月
- 4) 応化会ニュースの発行 2002年10月
- 5) 全会員への通信 2002年10月
(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求他)
- 6) 懇親ゴルフの開催（本年度1回目） 2002年11月7日
- 7) 関東地区懇話会・懇親会 2002年11月9日
- 8) 徒行会の開催（本年度2回目） 2002年12月7日
- 9) 懇親ゴルフの開催（本年度2回目） 2003年3月20日
- 10) “会員名簿”の発行 2003年3月

II. 諸会議

- 1) 幹事会
 - 第1回 2002年5月25日
 - 第2回 2002年11月16日
 - (新年会 2003年2月15日)
- 2) 各種委員会
 - 企画運営委員会 2002年7月13日
 - 応化会ニュース編集委員会 1: 2002年6月15日
2: 2002年9月21日
 - 名簿管理委員会 2003年1月29日
(2003年版発行要領、書面により委員会での承取付)
 - 地域別活動推進委員会 2002年9月7日
 - (関東地区懇話会・懇親会実行委員会 2002年9月13日)

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2002年10月13日
- 2) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2003年3月22日

IV. その他

- 1) 応化会ホームページの製作
(<http://www.ritsumei.ac.jp/se/rc/SECT-HP.html>
よりお入りください)

平成14年度（2002年度）決算

(単位：円)

一般会計		
<収入の部>	予算額	執行額
前年度繰越金	2,102,256	2,102,256
会費(一般)	2,500,000	2,298,000
会費(学生)	2,200,000	1,990,000
寄付金	300,000	200,000
雑収入	5,000	72
合計	7,107,256	6,590,328
<支出の部>	予算額	執行額
事業等補助金	200,000	12,000
地域別活動推進費	500,000	453,802
会議費	200,000	84,874
印刷費	1,000,000	486,675
輸送費	1,500,000	856,820
人件費	500,000	414,500
事務局費	50,000	39,528
雑費	100,000	30,000
拠出金(特別会計へ)	2,000,000	2,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	90,000
在学生活動援助費	200,000	80,000
振込手数料	100,000	57,663
予備費	657,256	0
合計	7,107,256	4,605,862
次年度繰越金		1,984,466

特別会計

<収入の部>	予算額	執行額
前年度繰越金	4,724,384	4,724,384
拠出金	2,000,000	2,000,000
名簿売上	10,000	2,000
名簿荷造送料	10,000	0
雑収入	1,000	0
合計	6,745,384	6,726,384
<支出の部>	予算額	執行額
名簿出版費	1,300,000	0
名簿荷造送料	50,000	0
人件費	500,000	296,000
事務局費	200,000	185,608
予備費	4,695,384	293,118
合計	6,745,384	774,726
次年度繰越金		5,951,658

平成15年度（2003年度）事業計画

I. 諸事業

- 1) 在校生への“会員名簿”配布 2003年4月
- 2) “2003年3月卒業生名簿”作成 2003年9月
- 3) 応化会ニュースの発行 2003年10月
- 4) 全会員への通信 2003年10月
(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求他)
- 5) 東海地区懇話会・懇親会 2003年10月25日
- 6) 徒行会の開催
- 7) 懇親ゴルフの開催 2003年10月18日

II. 諸会議

- 1) 幹事会
 - 第1回 2003年6月7日
 - 第2回 2003年10月
- 2) 各種委員会
 - 企画運営委員会
 - 応化会ニュース編集委員会
 - 名簿管理委員会
 - 地域別活動促進委員会
 - (東海地区幹事会(第1回) 2003年5月31日)
 - (東海地区幹事会(第2回) 2003年7月26日)
 - 20周年記念誌編集委員会 2003年6月7日
6月29日
7月27日

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2003年10月 or11月
- 2) 応用化学系卒業・修了記念パーティー 2004年3月21日

平成15年度（2003年度）予算

(単位：円)

一般会計

<収入の部>	予算額
前年度繰越金	1,984,466
会費(一般)	2,500,000
会費(学生)	2,000,000
寄付金	300,000
雑収入	5,000
合計	6,789,466
<支出の部>	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	700,000
会議費	200,000
印刷費	700,000
郵便送費	1,000,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	2,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	939,466
合計	6,789,466

特別会計

<収入の部>	予算額
前年度繰越金	5,951,658
拠出金	2,000,000
名簿売上	100,000
名簿荷造送料	100,000
雑収入	1,000
合計	8,152,658
<支出の部>	予算額
名簿出版費	1,018,500
名簿発送代	500,000
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	5,934,158
合計	8,152,658